



大きな木、珍しい木が3本ある。一番は「オツグロ様の檜」で、360度妨げる物がない一本育ちだから、八方に枝葉を伸ばし、樹齢350年以上、胸高直径120cmと実に堂々たる姿である。昭和56年に祠を建立した所、不思議なことに根元から榊が生えてきた。現在もその榊は生長し続けており、榊木として多くの人々に崇拜されている。それと、氏神様の参道にある「タブノキ」。これ自体も榊木とされる珍しい木で木目が美しい。1000年はたっているそうだが、『何これ？珍百景』、木から竹が生えている。もう一本は、地元様と呼ばれている所にある、椎茸の原木になるあの「檜」で、直系75cmの大檜である。

この地区も猪鹿には難儀している。この地は徹底した猪対策がとられている。例えば、小さな菜園の周りも、三面張りの排水溝の両岸も、という具合にところが、近年は鹿が出没。猪はボンと一飛び、鹿はどこ



タブノキに竹が



オツグロ様のヒノキ

食べあこ食べしない。朝気が付けば、大豆畑が野になつちよつた。ここも氏神様の名前と地区名は同じで、北ノ川の「北野川神社」である。社は手が入っており、窓はサッシ。中には一枚の絵馬が、「いざ鎌倉へ、波よ鎮まり給え」海神に太刀を奉納する新田義貞の姿が描かれている。平成の合併で、「東北ノ川」と改名した。谷あいを開けた集落で22戸が暮らしている。田んぼは、基盤整備ができる所はされており、すでに冬だときは完了し水張りを待っている。通り抜けの出来ない地形が幸いし、水はきれいという。「夏場に松葉川温泉の泊り客を乗せたバスがちよくちよく入ってくるぞね」「蛭狩りですか。蛭は大きい？」「そうみたい」町道は広く、ほとんどどこにでも駐車ができ、気に入った場所で鑑賞できる。夏は蛭、秋はコスモス。地区で取り組んでいて、4反程の田んぼが一面のコスモス畑になる。今年も計画しているという。田植がすんだらすぐ蛭。蛭がすんだらコスモス、と。訪ねてみたい集落である。

今年も計画しているという。田植がすんだらすぐ蛭。蛭がすんだらコスモス、と。訪ねてみたい集落である。



コスモス畑

町のうごき		1月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出	適正值 mg/L		1月10日
男		9,147	-10	男	2	19	16	9	リン酸	5.0	測定値以下
女		10,208	-18	女	5	15	6	14	硝酸	0.5	0.236
計		19,355	-28	計	7	34	22	23	アンモニウム	5.0	測定値以下
世帯数		8,775	-12						アニオン活性剤	1.0	0.550
									化学的酸素消費量	10.0	4.243

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十川の
水質状況

四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>

広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)